

## 韓国国立中央図書館の現況と課題

国立中央図書館 資料運営課課長  
曹永柱（チョ・ヨンジュ） 事務官

### I. はじめに

1997年に始まった韓国と日本の国立図書館間の業務交流が今年で20回を迎えました。20回目を迎える意義深い場で基調報告をすることになり、大変嬉しく思います。これまでの業務交流においては106件のテーマ報告があり、多くの職員が相手国の図書館を訪問しました。これを通じ、両国の図書館はお互いに経験を共有し、発展方法をともに模索してきました。この場を借りて、業務交流が両国の図書館の代表的な交流の場となるよう努めてこられた両国の図書館の関係者の皆さまに感謝の意を表します。

本日の基調報告では、変化する情報環境に応じて国立中央図書館で推進している「国家知識資源の収集および管理の強化」と「知識情報利用サービスの高度化」を中心にご報告いたします。

### II. 国家知識資源の収集および管理の強化

#### 1) 国家知識資源の収集体系強化

デジタルメディアの普及、モバイル化など、急変する環境に能動的に対応するため、2016年に図書館法が改正されました。これに伴い国立中央図書館は、オンライン資料納本制度を導入し、公共機関発行資料のデジタルファイル納本を新設するなど、国家知識情報資源の網羅的な収集のための体系を強化しました。

改正された図書館法によってISBNとISSNを付与された電子書籍と電子ジャーナルなどは2部を納本収集することになり、公共機関の刊行物は納本部数が2部から3部に増やされ、デジタルファイルも一緒に納本収集することになりました。2016年8月から導入されたオンライン資料納本収集の活性化のため、関連機関との協力を強化し、積極的な広報活動を展開しており、2017年におけるオンライン資料の納本収集目標は7万5,000件です。新しい出版傾向として現れ始めた独立系出版物まで納本漏れが発生しないよう、独立系出版物の流通状況と発行資

料を調査し、納本を奨励しています。

学術研究分野の重要な資源である学位論文は、韓国教育学術情報院（KERIS）からデジタルファイルの提供が受けられるように協力をし、収集を強化しました。

2015年の韓国の民営放送局である（株）SBSの放送映像資料の寄贈に続き、2017年には韓国放送公社（KBS）の映像テープ、デジタルファイルなど、放送時間にして10万時間に相当する資料の寄贈の受け入れを推進しています。国立中央図書館は、社会文化的に価値の高い放送資料に至るまで、国家レベルで長期保存できる基盤を設けることにより国家知識情報資源の網羅的な収集のための目標へ向けてさらに一歩進むこととなりました。

2016年9月には、デジタル図書館開館以来、単行本、逐次刊行物、デジタル資料などの媒体基準で編成されていた図書館の組織構造を、収集と整理、保存および利用といった機能中心の組織構造に再編し、オンライン資料とオフライン資料の有機的な管理ができるようにしました。

## 2) 大規模なデジタル化とオンライン資源の拡充

国立中央図書館は、収集した国家文献の永久保存と次世代への継承のため、1995年から継続的に所蔵資料のデジタル化事業を進めています。昨年は、2025年までに国立中央図書館の所蔵資料のうち、発行から5年が経過した205万冊（訳注：パワーポイント資料では250万冊）のデジタル化を目標とする「デジタル化中期事業計画」を策定し、前年比の3倍に達する13万冊をデジタル化しました。2017年にも、補正予算が確保され、当初の計画である22万冊を含む26万冊をデジタル化する計画です。

最近、当館は、寄贈を通じて多様で貴重なオンライン資料の収集を拡大しています。2016年のオンライン資料の寄贈による収集は、3つの機関から約300万件余りに達します。（社）韓国音盤産業協会からは音盤資料の収録曲、歌詞、メタデータ19,483件の寄贈を受け、2015年に業務協定を締結した韓国研究財団からは韓国学術誌引用索引（KCI）掲載の学術誌原文896,373件の寄贈を受けました。9月には韓国言論振興財団と「古新聞情報資源の共同活用および相互協力のための業務協定」を締結して『漢城旬報』などの古新聞15種、約209万件のメタデータと原文ファイルを受け入れ、両機関が構築したDBの共同活用基盤を設けました。

国家的災害・イシュー・主題分野についての公開用Web資源はオアシス（OASIS）を通じて集中的に収集しており、2016年には韓江（ハン・ガン）氏（訳注：作家、『肉食主義者』等）のマン・ブッカー賞受賞、ブレグジット（Brexit）など9件のテーマ・コレクションを構築し、災害アーカイブに慶州地震を追加しました。2016年末現在、合計1,126,708件（ウェブサイト225,470件、ウェブ資料901,238件）のWeb資源を収集しました。また、滅失しやすい公

開ウェブサイト为国家レベルで収集・保存し、後世に研究資料として提供するため「.co.kr」ドメイン20万件を対象に包括的なウェブサイト収集を2016年に試験運用しており、2017年にはその対象を30万件に拡大しました。

### 3) 国家知識文化遺産の保存管理の強化

国立中央図書館は、国家的に意味のある国内外の知識情報資源の永久保存および後世への継承のため、国として保存能力の強化に取り組んでいます。2016年9月に「図書館研究所」を「資料保存研究センター」に改編し、国家知識文化遺産を体系的に管理するための組織力を強化しました。資料保存研究センターでは、国立中央図書館資料だけでなく、国内外に散在する重要な文献を総合的に保存・復元する体系を構築する計画です。このため、年間8万点余りを処理できる大量脱酸処理装置を導入しました。2017年には、国内の貴重資料所蔵機関に保存処理の需要調査を実施し、11機関の2万点余りを含む6万点以上の資料に対して脱酸処理作業を行う計画です。

また、図書館研究所に含まれていた古文書の管理および研究業務を独立させて「古文献課」を新設しました。古文献課は、韓国内の古文献はもちろん、海外に所在する古文献にまで対象を拡大し、国家記録文化遺産として保存と活用を強化する業務を行うこととなります。現在、韓国には321万冊の古書と107万点の古文書など、合計428万点の古文献が存在しているものと推定されます。国立中央図書館には28万冊の古文献が保存されており、現在、国内の主要な機関が所蔵している古文献は約231万点であることが把握されています。古文献課では、民間が所蔵している未発掘の古文献の発掘事業に継続して取り組み、発掘された資料の保存と活用を支援する計画です。

## III. 知識情報利用サービスの高度化

### 1) 国家書誌の標準化および活用性の向上

国立中央図書館は、国を代表する図書館として国家書誌を作成しています。2016年度には、単行本の書誌データ約30万件、逐次刊行物の書誌データ約6万6,000件、個人名および団体名の典拠データ約3万7,000件をKORMARC形式で、オンライン資料約12万4,000件をMODS形式で作成しました。

また、書誌情報の標準化および共有・協力のためにさまざまな努力を傾けています。2016年2月に国際標準名称識別子（ISNI）国際機構と登録機関協定を締結し、韓国の創作者たちにISNIを付与するための業務を開始しました。韓国国内の学術、文学、芸術、著作権などの関連機関と国際標準名称識別子（ISNI）コンソーシアムを結成し、標準識別体系を通じた人名典拠の作成対象を図書館納本資料の著者だけでなく、12の参加機関の創作者にまで拡大しました。2017年8月末現在、ISNIの付与件数は7万件余りです。

国立中央図書館は、情報資源の効率的なアクセスと共有のため、国家典拠を作成しており、昨年は国家典拠とISNIの連携システムを開発しました。国家典拠は、これまでに34万件を作成しており、ISNI、VIAF事業の推進などを契機に典拠データの拡大に注力しています。2017年には8万件の典拠データを作成し、2018年には30万件にまで拡大する計画です。

国際的には、バーチャル国際典拠ファイル（VIAF）に参加して個人名典拠データ約27万件を提供しています。また、OCLC（Online Computer Library Center）とも2016年8月に業務協定を結び、韓国国内の出版物の図書情報150万件を提供することにしました。毎年30万件的書誌情報を5年間提供し、韓国国家書誌の国際的共有および利用アクセシビリティの拡大に貢献します。

## 2) 知識情報オンラインサービスの強化

国立中央図書館は、オンライン資料の収集拡大とともにデジタルコンテンツに係るオンラインサービスをさらに強化していく計画です。当館が構築した原文DB 62万9,000冊のうち、著作権の保護期間が満了したものと利用が許諾された16万7,000冊は、いつでもどこでも国立中央図書館（[www.nl.go.kr](http://www.nl.go.kr)）および国立デジタル図書館（[www.dlibrary.go.kr](http://www.dlibrary.go.kr)）のホームページを通じて無料で利用できます。著作権が保護されている46万2,000冊は、図書館補償金を支払って利用できる資料として当館および韓国複製伝送著作権協会と協定を結んだ図書館（公共、大学、小さな図書館など1,867機関）で利用できます。2016年9月からは、改正された「図書館の著作物複製伝送利用補償金」の告示基準に基づき、当館が協定図書館に提供する原文の伝送・プリントアウト時に発生する補償金を支援してデジタル化資料の利用活性化を図っています。

また、原文DBの利便性のために検索機能を強化し、デジタルキュレーションサービスである「デジタルコレクション」のホームページも新たに構成しました。これまでイメージでのみ提供されていた古書・古文書の原文を詳細検索できるようにメタデータを補完し、版本、時代別、類型別ブラウジング機能を追加しました。今年2月には、1950年以前に発行された新聞70種合計192万件の記事を簡単かつ迅速に見つけて読むことができるプラットフォームとして「大韓民国新聞アーカイブ」サービスを開始しました。新聞トレンド、新聞年代記、主題関係サービスなど、さまざまな可視化サービスも提供して活用性を高めました。

ホームページを通じて7件のオンライン展示コレクションを提供しており、2016年には「国内文学賞受賞作品展」、「韓国戦争（訳注：朝鮮戦争）、米NARA収集文書でみる」、「朝鮮の読書熱風と出会う」など3件の展示をパノラマ撮影技法によって臨場感のあるオンライン展示に再構成し、惜しくも展示を観覧できなかった利用者のために提供しています。

### 3) 本館スペースの再構成と利用サービス改編

国立中央図書館は1988年に建設されましたが、老朽化した本館の内外設備の改修工事を2015年から開始し、2018年に完了する予定です。当館の本館には合計12の資料室があり、資料の主題、類型、年代別に区分して提供しています。今回の工事を契機とし、これまで提起された資料の分散配置による利用者の不便、資料室別利用席占有率の不均衡などの問題点も改善していく計画です。このため、スペースの再構成および利用サービス改編計画を策定しており、スペースの再構成の大きな柱組みは主題別の資料室統合、閉架資料の拡大、利用席の拡大、無騒音区域の設置、専門参考相談室の設置などです。

あわせて、当館の研究情報サービスを強化する計画です。本館内に研究者のための研究スペースを設けて参考情報、研究コンサルティング、各種リサーチおよびリテラシー教育などの研究情報サービスプログラムを企画しています。

国立中央図書館は、スペースの変化が単なるインテリアの変更にとどまらず、利用者の利用行動とサービス、そして組織運営にプラスの変化をもたらすよう取り組む計画です。

### 4) 利用者中心サービスの強化

国立中央図書館は、近代文学資料の体系的な収集・保存・継承のため、2014年から2016年まで「近代文学資料の所蔵実態調査」を実施し、国内294機関が所蔵する近代文学資料61,377件の目録を作成して「近代文学総合目録システム」を通じて提供しています。全国に43カ所ある近代文学関連機関と「近代文学情報協力網」を構築し、近代文学情報の共有および活用の先頭に立ち、「韓国近代文学解題集」、「近代文学」などの資料集を発行して近代文学研究の外縁を拡大しています。

2017年2月には記録媒体博物館をオープンしました。文化、知識、情報が盛り込まれた各種記録媒体の価値を伝え、科学技術の発展によって絶え間なく進化し続ける記録媒体の過去と現在、未来を通覧するための空間を提供するものです。タイプライター体験など、図書館内において目新しい教育・体験空間として関心を集めています。

国立中央図書館は、複合文化空間としての図書館の機能を拡大し、対外広報活動を強化するために、節目ごとにさまざまな企画展示や常設展示を開催しています。とりわけ2016年には本館展示室をリニューアル・オープンして「国内文学賞受賞作品展」など5件の展示を開催し、デジタル図書館展示室では「SNS詩人時代展」、「2016オール・ウェブトゥーン（注：all webtoon（webtoonはウェブ漫画を指す造語））体験展」を開催しました。古文庫室と文学資料室内に設置されている展示スペースでも定期的に展示を開催しています。

#### IV. おわりに

これまで国立中央図書館が取り組んでいる主な事業を中心にご報告いたしました。このほか、現在取り組んでいる重要な課題としては、明日のテーマ報告でご報告する予定の当館の中長期発展計画である「国立中央図書館2018－2022」の策定の取り組みと国家文献保存館の建設推進事業があります。当館は2014年に「国立中央図書館2014－2018」を策定して取り組んできましたが、推進課題の早期達成と急変する情報環境の変化に対応するため、新たな中長期計画の策定を進めています。2018年には、新たな国立中央図書館のビジョンを盛り込んだ中長期計画を通じて将来の当館の姿を描けることでしょう。

当館の書庫の収蔵能力は1,800万冊であります。現在の蔵書1,100万冊に加えて年間70万冊の蔵書が増加することを考慮すれば、今後8年以内に書庫が飽和状態になると予想され、このことへの積極的な対策が必要な状況です。このため、当館は国家文献保存館を建設するための基礎研究を開始し、2,000万冊の収蔵能力を備えた国家文献保存館の建設を目標に調査研究を進めています。

今年の韓日国立図書館の業務交流では、「国立図書館の戦略計画」、「図書館員対象の研修」と「児童青少年対象のサービスの現況と課題」をテーマに、両国の図書館の発表と議論が行われます。両国の図書館の未来の青写真と未来に備える人材育成のため、お互いの経験が十分に共有され、発展方法が議論される場となるよう期待しています。

ありがとうございました。